



## 門外不出のコレクション、英国から奇跡の初来日！

英国、スコットランド最大の都市グラスゴー。船舶の売買で大成功し「海運王」と称されたウィリアム・バレル（1861-1958）は、古今東西の美術工芸品など 9,000 点におよぶコレクションを築きました。本展は、その豊富なコレクションのなかから 19 世紀フランス絵画、オランダのハーグ派、「グラスゴー・ボーイズ」や「スコティッシュ・カラリスト」といったスコットランドの画家たちの作品を紹介します。写実主義から印象派への流れを辿りながら、英国人コレクターならではの視点にも迫ります。

バレルが収集した作品は、1944 年にグラスゴー市へ寄贈され、83 年から美術館「バレル・コレクション」として一般公開されてきました。「大気汚染の影響が少ない郊外に作品を展示すること」「国外に持ち出さないこと」が美術館建設に関する条件だったため、この世界屈指のコレクションは永らく現地でしか見られませんでした。本展は、同館の改装に伴い奇跡的に実現した展覧会で、ドガの代表作〈リハーサル〉をはじめ、バレル・コレクション全 73 点が日本初公開となります。さらに、同市のケルヴィングローヴ美術博物館より、ゴッホによる肖像画や、バレルと同時期に同じく海運業で成功を収めたウィリアム・マキネスが収集したルノワール、セザンヌなど 7 点（うち 3 点日本初公開）を加え、総数 80 点を紹介します。

## 開催要項

■開催期間：2019 年 8 月 7 日（水）－10 月 20 日（日） 全 66 日間

■休館日：毎週月曜日（ただし祝日の場合は開館、翌火曜日休館。8 月 13 日（火）は臨時開館）

■開館時間：10:00－19:00（展示室入場は閉館 30 分前まで）

■観覧料：一般 1,300（1,100）円、大高生・70 歳以上 900（700）円、中学生以下無料

\*（ ）内は前売および 20 名以上の団体料金（団体は来館当日に限り購入可能） \*障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則 1 名は無料

■前売券：6 月 22 日（土）から 8 月 6 日（火）まで以下の箇所にて販売

静岡市美術館、チケットぴあ、[Pコード：769-762]、ローソンチケット[Lコード：41811]、セブンチケット[セブンコード：076-081]、谷島屋（パルシェ店、マークイズ静岡店、高松店、流通通り店）、戸田書店静岡本店、MARUZEN& ジュンク堂書店新静岡店

■主催等 主催＝静岡市、静岡市美術館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団、静岡朝日テレビ、日本経済新聞社、毎日新聞社

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、プリティッシュ・カウンシル

協力：日本航空

協賛：大日本印刷

静岡展特別協賛：セキスイハイム東海

## 海運王 ウィリアム・バレル（1861－1958）とバレル・コレクション



ウィリアム・バレル卿

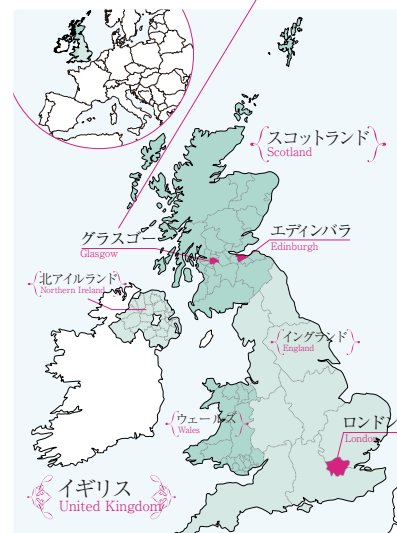
ウィリアム・バレルは 1861 年に英国、スコットランドの海港都市グラスゴーに 9 人兄弟の三男として生まれました。15 歳で家業の織装業（各種装備などを船体に取り付ける作業）を手伝い始め、24 歳で父親の跡を継ぎます。その後、船舶の売買で大成功し「海運王」と称されました。

当時、英国随一の海港都市として経済成長が著しかったグラスゴーでは、美術品市場も活況となっていました。バレルも

少年の頃から美術品に関心を持って収集を始め、1890 年代から 1920 年代にかけて、グラスゴー出身の画商アレクサンダー・リード（1854－1928）から作品を購入。古今東西の美術工芸品を収集しました。1944 年、バレルはコレクションのうち 9000 点以上の作品をグラスゴー市に寄贈。その条件として、当時深刻な社会問題であった大気汚染の影響が少ない郊外にコレクションの作品を展示すること、また英国外には貸し出さないことが提示されました。1983 年にグラスゴー市は郊外のポロック公園内にコレクションを移し、バレル・コレクション（The Burrell Collection）として一般公開。以降、近代名画を集めた世界屈指のコレクションと称され多くの観光客が訪れています。同館は 2015 年から 2020 年まで改修工事により閉館しているため、英国外への作品の貸し出しが可能になり、海を越えて本展の開催が実現しました。



バレル・コレクション外観



## みどころ

# 1 世界屈指のコレクション初来日！ バレレ・コレクション73点、すべてが日本初公開

これまでグラスゴーでしか見るができなかったバレレ・コレクション。本展は同館閉館中だからこそ実現した、またとない機会です。



エドガー・ドガ《リハーサル》1874年頃 油彩・カンヴァス  
©CSG CIC Glasgow Museums Collection

# 2 知られざるドガの傑作 《リハーサル》初来日！

バレエのリハーサルに励むダンサーたちを、離れた所から覗き見るような、ひっそりとした雰囲気が漂う本作。しかし、手前のフロアの空間は大きく取られ、左側の螺旋階段の上からダンサーが降りてくるなど、その構図は大胆です。バレレ・コレクションのなかでも特に大事にされてきた、ドガの知られざる名作をお見逃しなく。



フィンセント・ファン・ゴッホ《アレクサンダー・リードの肖像》1887年  
油彩・板 ケルヴィングローヴ美術博物館蔵  
©CSG CIC Glasgow Museums Collection

# 3 コレクション形成の立役者 ゴッホが描いた画商の肖像画

グラスゴーの画商アレクサンダー・リードはバレレをはじめ、スコットランドの美術愛好家たちに同時代のフランスやオランダ美術を紹介しました。リードは一時期パリで、フィンセント・ファン・ゴッホの弟で画商のテオと一緒に暮らしていました。その頃描かれたゴッホによるリードの肖像画が、ケルヴィングローヴ美術博物館より出品されます。



ピエール・オーギュスト・ルノワール《画家の庭》1903年頃 油彩・カンヴァス  
ケルヴィングローヴ美術博物館蔵  
©CSG CIC Glasgow Museums Collection

# 4 ルノワール、セザンヌ、ゴッホ ケルヴィングローヴ美術博物館からも7点

本展では、ゴッホによる肖像画のほか、バレレと同時代にグラスゴーの海運業で財をなしたウィリアム・マキネスが集めたシスレー、ルノワール、セザンヌらの作品が、ケルヴィングローヴ美術博物館から出品。7点のうち3点が日本初公開です。



サミュエル・ジョン・ペブロー《バラ》1900-05年頃 油彩・カンヴァス  
©CSG CIC Glasgow Museums Collection

# 5 スコットランドの画家たちも紹介

19世紀末のスコットランドの美術は、イングランドではなく、オランダやフランスからの影響を受けていました。バルビゾン派から影響を受け、伝統的なアカデミズムから距離をとった「グラスゴー・ボーイズ」や、印象派やフォービズムの画風を学び、明るい色面を取り入れた「スコティッシュ・カラリスト」など、スコットランドの画家たちも紹介します。

## 展覧会構成

英国人コレクターならではの視点で収集された作品群を、海運王の夢が託された名画を巡る印象派への旅に見立て、「身の回りの情景」「戸外に目を向けて」「川から港、そして外洋へ」の3章構成でご紹介します。

### 序章

## Introduction

19世紀後半から20世紀初頭にかけて、スコットランドは豊富に産出する石炭を背景に、大英帝国の経済を支える地域として工業と海運業が発達しました。事業に成功した者の中には美術品の収集に興味を抱いた者も多く、海運王ウィリアム・バレルもその一人でした。一方スコットランドは、文化的にはイングランドを飛び越えてフランスからの影響が強く、19世紀末においてグラスゴーは、フランス国外では一番のフランス絵画のマーケットであり、有力な画商も多く活躍しました。

その中で最も有名なのがグラスゴー生まれのアレクサンダー・リード（1854-1928）です。1889年にグラスゴーに画廊を開設し、プーダン、ファンタン＝ラトゥール、コロー、クールベ、マネ、ドガ、セザンヌといったフランス人画家のほか、オランダのハーグ派やスコットランドで活動した画家も扱っていました。またパリではフィンセント・ファン・ゴッホの弟で画商だったテオと出会い、仕事を共にする友人でした。本展出品のゴッホが描いたリードの肖像画は、このような関係の中で描かれました。



ウィリアム・バレル卿（45歳頃）  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



ハットン城（1915年頃）  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



フィンセント・ファン・ゴッホ《アレクサンダー・リードの肖像》1887年  
油彩・板 ケルヴィングローヴ美術博物館蔵  
©CSG CIC Glasgow Museums Collection

## 第1章

## Intimate Scenes 身の回りの情景

少年のころからビジネスの世界に身を置いたバレルにとって、室内の情景や静物画に描かれた静寂な空間は、心を癒す場所であったでしょう。英国で人気のあったファンタン＝ラトゥールの花の作品をはじめ、親密な雰囲気漂う室内が描かれた作品を紹介します。



フランツワ・ボンヴァン《スピネットを弾く女性》  
1862年 油彩・カンヴァス  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



エドゥアール・マネ《シャンパングラスのバラ》  
1882年 油彩・カンヴァス  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



アンリ・ファンタン＝ラトゥール《春の花》1878年 油彩・カンヴァス  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection

## 第2章

# 戸外に目を向けて *Peoples' Lives and Surroundings*

第2章では、家の外、街中、郊外など、広く戸外に目を向け、その景色や、人々の日常を捉えた作品を紹介します。

産業革命が進むヨーロッパでは各地で都市化が進み、多くの労働者が都市を基盤に生活をするようになります。子どもたちにとっても、家から一歩外に出た世界は社会にふれる場でした。実業家の家に生まれたバレレは、初等教育を終えたあとの15歳で働き始めますが、当時としてはごく普通のことだったでしょう。街中や工場で働く労働者階級の子もいれば、学校に通い稽古ごとに時間を費やす資産家の子もいましたが、ドガの描くバレエのリハーサルに励む少女たちはむしろ、貧しい家の子どもたちで、身を立てるために舞台に立っていました。

一方、郊外を描いた作品に目を向けると、バルビゾンやフォンテーヌブローといった、比較的行きやすい近場の田舎が登場します。パリに限らず都市部を活動の拠点としていた画家たちは、美しい自然やそこで生きる農民の姿など、近代化された都市にはない、ノスタルジックな光景を求め郊外へ足を運びました。さらに、こうした絵画を買い求めたのも、都市に住む中産階級以上の人々でした。



ウジェーヌ・ブーダン《ブリュッセル、旧魚市場》1871年 油彩・板  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



ジョゼフ・クロホルル《二輪馬車》1894-1900年頃 水彩、グワッシュ・麻布  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection

エドガー・ドガ《リハーサル》1874年頃 油彩・カンヴァス ©CSG CIC Glasgow Museums Collection





カミーユ・コロロ 《フォンテーヌブローの農家》1865-73年頃 油彩・カンヴァス  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



【右上】  
ポール・セザンヌ 《エトワール山稜とピロン・デュ・ロワ峰》  
1878-79年 油彩・カンヴァス ケルヴィングローヴ美術博物館蔵  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



【右下】  
ピエール・オーギュスト・ルノワール 《画家の庭》  
1903年頃 油彩・カンヴァス ケルヴィングローヴ美術博物館蔵  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection

### 第3章

## 川から港、そして外洋へ

# From River to Ocean

グラスゴーで海運業により成功を収めたバレルですが、兄のジョージとともに、まるで溪流が大河になるように少しずつ家業を大きくしていきました。それは美術品収集においても同じで、彼の美術品コレクションはフランス近代絵画にとどまらず、中世ヨーロッパのステンドグラスや、インドやペルシア、中国の美術品に至るまで実に多岐にわたり、その数は 9,000 点にもものぼります。バレル自身は船乗りになろうと思わなかったようですが、実際の船旅ではなく、美術品の収集を通じて大海原に乗り出して行ったと言えるかもしれません。

バレルは、印象派への道を切り開いたドービニーやブーダンの作品を大いに好んでいました。彼らの作品の多くに海や川が描かれていたからでしょう。グラスゴーの港に、自らの船を幾艘も所有していたバレルは、彼らの作品をどんな思いで眺めていたのでしょうか。



ウジェーヌ・ブーダン 《ドーヴィル、波止場》1891年 油彩・板  
©CSG CIC Glasgow Museums Collection

シャルル=フランソワ・ドービニー  
《ガイヤール城》  
1870-74年頃、油彩・板  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



ウジェーヌ・ブーダン  
《トゥルーヴィルの海岸の皇后ウジェニー》  
1863年 油彩・板  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



アンリ・ル・シダネル《月明かりの入り江》  
1928年 油彩・カンヴァス  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection

カミーユ・コロー《船舶（ル・アーヴルまたはオンフルール）》  
1830-40年頃 油彩・紙、板  
© CSG CIC Glasgow Museums Collection



## 関連イベント

### ① 講演会「交流する絵画：前期印象派から印象派へ」

本展図録にご寄稿いただいた成城大学名誉教授・広島県立美術館館長の千足伸行氏による講演会です。

日時：9月7日(土) 14:00-15:30 (開場13:30)  
講師：千足伸行氏 (成城大学名誉教授・広島県立美術館館長)  
会場：当館多目的室  
参加料：無料  
定員：70名 (応募多数の場合は抽選)  
申込締切：8月22日(木)必着

#### 【①申込方法】

当館HP申込フォーム(www.shizubi.jp)または往復はがきにて。1件につき4名様まで。

※往復はがき記載事項

①催事名、催事日 ②氏名(参加人数分) ③年齢 ④住所(郵便番号から) ⑤電話番号 返信面に宛先を記入の上、静岡市美術館まで。

※抽選の如何にかかわらず結果は通知致します。

### ② レクチャー&試飲会「スコッチ・ウィスキーの魅力」

中村大航氏は、スコットランドの蒸溜所を訪ね歩き、そのノウハウをもとに2016年「静岡蒸溜所」を設立しました。

静岡産の杉を使った発酵槽を導入するなど、“オール静岡の国産ウィスキー造り”を目指しています。

バレル・コレクションがスコットランドのグラスゴーにあることにちなんで、スコッチ・ウィスキーについてのレクチャーと試飲会を行います。

展覧会鑑賞とあわせ、スコットランドの食文化に触れてみませんか。

※おひとり様に1本ミネラルウォーターが付きます。

※未成年者のご参加はお断りさせていただきます。

※飲酒運転は法律で固く禁じられております。ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

日時：9月21日(土) 17:00-19:00 (開場16:30)  
※冒頭で当館学芸員によるスライドトーク(30分)を行います。  
また、上記時間に展覧会鑑賞は含まれていません。  
イベントチケット購入後、会期中好きな時にご鑑賞ください。

講師：中村大航氏 (ガイアフロー静岡蒸溜所代表)

会場：当館多目的室

参加料：3,000円 (チケット制・展覧会観覧券付き)

※8月7日(水)より当館受付にて販売(定員になり次第販売終了)

定員：成人40名



### ③ 当館学芸員によるギャラリートーク

日時：8月25日(日)、10月13日(日)  
いずれも14:00- (各回40分程度)  
参加料：無料(要観覧券)  
申込不要(当日受付前にお集まりください)

### ④ しずびオープンアトリエ

日時：8月9日(金)-8月18日(日)  
①13:30- ②15:00- (各回約1時間)  
会場：当館ワークショップ室  
参加料：200円  
(受付でチケットご購入の上、ワークショップ室へ)  
対象：小学生以上  
各回15名(申込不要・先着順)  
※未就学児は保護者同伴であれば参加可(2人で1作品)

### ⑤ しずびピッコプログラム

日時：8月24日(土)  
①10:30-12:00 ②14:00-15:30  
会場：当館ワークショップ室  
参加料：500円(保護者は要展覧会観覧)  
対象：2歳以上の未就学児 各回10名  
申込締切：8月8日(木)必着  
※申込方法、詳細は当館HPをご覧ください。

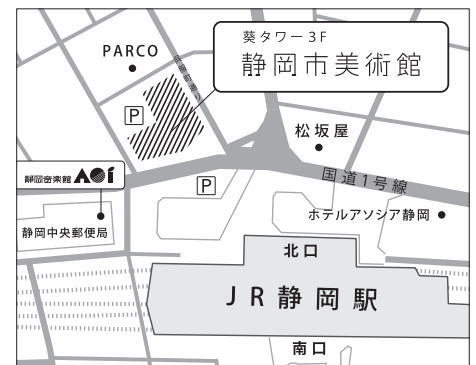
#### ■次回展覧会

奇蹟の芸術都市パルセロナ展  
11月15日(金)-2020年1月19日(日)

#### ■静岡県立美術館展覧会

熊谷守一 いのちを見つめて  
8月2日(金)-9月23日(月・祝)  
問合せ：TEL054-263-5755 静岡市駿河区谷田53-2  
(JR草薙駅よりバス又はタクシー)

電車— JR静岡駅北口より地下道を利用して徒歩3分  
静岡鉄道新静岡駅より徒歩5分  
新幹線— 東京駅・名古屋駅から東海道新幹線ひかり号で約1時間  
新大阪駅から東海道新幹線ひかり号で約2時間  
車— 東名静岡ICより約15分  
※お車でお越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。  
空路— 富士山静岡空港より  
静鉄バス(静岡エアポートライナー)で約1時間



静岡市美術館  
SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F  
tel. 054-273-1515 (代表) www.shizubi.jp